

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和08年06月09日(火)

事務事業		応急手当普及啓発事業				担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	52211
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち				事業区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務			
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり				根拠法令 個別計画等	応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱			
	小項目	2	消防・救急体制の充実								
	主要プロジェクト										
事業概要		救命率の向上には、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による適切な処置が重要であるため、市民に応急手当の普及啓発を図るものである。									
目的 ※何のために		応急手当の普及啓発及び正しい知識等を習得させ重要性の理解を得る。									
対象 ※誰・何を対象に		市民及び市内在勤または在学者。									
手段 ※どのように		救命講習会を開催し応急手当に関する指導を行う。									
成果 ※何を求めるか		バイスタンダーによる救命処置実施率の向上を図る。									
執行体制		☒ 職員 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 指定管理 ☐ 市民ボランティア ☐ NPO等 ☐ その他（ ）									
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名		前年度決算額（円）
		一般会計	9	消防費	1	消防費	1	常備消防費	応急手当普及啓発事業	1,628,958	
本事業の 主な業務		・救命講習会の開催							・		
		・救命講習に関する消耗品・備品の購入							・		
		・							・		
		・							・		
		・							・		
		・							・		

2. 事業費（投入コスト）

※令和7年度は決算見込み額です。

単位：円

区分			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画			・ A E D協力事業所認定制度 【認定数： 2 1 5】	・ 消耗品購入 ・ 備品購入	・ 消耗品購入 ・ 備品購入 ・ AED協力事業所 ・ ジュニア救命士育成	・ 消耗品購入 ・ 備品購入 ・ AED協力事業所 ・ ジュニア救命士育成	・ 消耗品購入 ・ 備品購入 ・ AED協力事業所 ・ ジュニア救命士育成	
事業費	予算（現額）		583, 000	880, 000	1, 729, 000	1, 724, 000	1, 040, 000	
	決算額		523, 908	579, 043	1, 691, 540	1, 628, 958	0	
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		他特定財源	142, 000	187, 000	379, 000	369, 000	281, 000	
		一般財源	381, 908	392, 043	1, 312, 540	1, 259, 958	759, 000	
人件費	従事職員数（人）	1. 20	1. 20	1. 20	1. 30	1. 30		
	人件費相当試算※	9, 443, 469	9, 612, 198	9, 866, 690	11, 020, 223	11, 451, 036		
総事業費試算			9, 967, 377	10, 191, 241	11, 558, 230	12, 649, 181	12, 491, 036	

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
実績値の算出式									
活動指標 1	普通・上級救命講習会の実施回数	目標値	回	80.00	129.00	136.00	138.00	122.00	
		実績値		129.00	136.00	138.00	122.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		前年度の実施回数を目標値として設定/実施回数						
	実績値の算出式								
活動指標 2	救命講習普及啓発回数	目標値	回						
		実績値		12.00	10.00	11.00	11.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		イベント実施回数は年ごとに増減することから目標は設定できない / イベント参加回数						
	実績値の算出式								
成果指標 1	普通・上級救命講習受講者数	目標値	人	880.00	1,399.00	1,980.00	2,093.00	2,023.00	
		実績値		1,399.00	1,980.00	2,093.00	2,023.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		前年度受講者数を目標値として設定 / 実施人数						
	実績値の算出式								
成果指標 2	市民による救命処置の実施率	目標値	%	52.85	52.85	52.85	53.11	54.50	
		実績値		47.10	50.00	53.11	54.50		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		前年度実施率を目標値として設定 / 応急手当者数/心肺停止者数（目撃なし等すべての項目を含む）						
	実績値の算出式								
成果指標 3	講習1回あたりにかかる費用	目標値	千円						
		実績値		77.00	76.58	83.70	103.68		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		講習の回数は申込み回数により増減することから目標は設定できない / 講習会数/総事業費						
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
 目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
 事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
 （評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	将来的な救命率の向上を目指し、深谷市・寄居町の小学5年生以上を対象とした「ジュニア救命士の育成」をするよう、講習するための資機材を準備し全25校に実施した。 また、救命講習受講者数は昨年度2,093人から2,023人と70人若干減少したものの、市民による救急隊の応急手当の実施率が昨年と比べ53.11%から54.5%と上昇したことで、救命のために行動できている。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	小学生から命を大事にする教育をすることで、命を大事にする心を育むとともに子どもたちの健やかな成長と子供を通じて家庭での応急手当の普及、将来的な社会全体の救命率向上に資するよう引き続き実施すること。 救命講習受講者については、若干の減少がみられたが、応急手当の実施率が上昇したことをみると、昨年よりも市民が救命のために行動できていると考察できる。引続き救命の意識が根付く社会を目指し、講習会を実施すること。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 高野 武己

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
 （評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	「ジュニア救命士の育成」については、2年目ということもあり、授業に対する教員の意識も向上した。また、授業参観で実施したことにより、保護者に対しても救命の意識を伝えることができた。 事業所に応急手当普及員を認定したことで、従業員が継続的に応急手当を学ぶ機会が増え、救命処置をできる人材の育成につながり、救急隊が到着までに適切な応急手当が可能となり、救命率の向上が期待できる。
			評価者 課長補佐兼救急管理係長 高野 武己